

1.1.2.6-06

「から」と「より」の使い分け

1.1.2.6-06_「から」と「より」の使い分け_ナレッジ



「から」と「より」はそれぞれさまざまな用法を持っているが、同じような用いられ方をする場合もある。具体的に言えば、「時間」や「場所・位置」などの「開始点」ないし「起点」とのものを標示する場合である。

例文

「10時から／より～」の例が「時間の開始点」で、
「秋田から／より～」の例が「場所の起点」に相当します。

さて、このような「より」と「から」は果たして全く同じものと見なしてよいのでしょうか。
辞書の記述などでは、どちらもほぼ同義のものとして特に区別されていないようです。
しかし、これらをよく観察してみると、微妙な使い分けが存在するようです。

例えば、「から」は「しか～ない」や「だけ」などを用いて限定を表す表現にすることができますが、
「より」の場合はこうしたものを後続させると不自然な表現になります。

例文

- 一般の方は10時からしか入れません。
- 一般の方は10時からだけ入れます。
- ×一般の方は10時よりしか入れません。
- ×一般の方は10時よりだけ入れます。

1.1.2.6-06_「から」と「より」の使い分け_ナレッジ



どちらも「起点」「開始点」を表す点では同じですが、「まで」と組み合わせて時間や場所の「範囲」を表そうとした場合、「から」は自然ですが、「より」は若干ですが、不自然な表現となります。

例文

福島から北が東北地方です。

福島より北が東北地方です。

福島から東京までの距離はどれくらいですか。

△福島より東京までの距離はどれくらいですか。

ただし単に「まで」と一緒に用いる場合は「東京まで沖縄よりはるばるやって参りました」のような表現が可能です。

しかし、上の例はこのような語順にして「東京までの距離は福島よりどれくらいですか」と言うことはできません。

つまり「～から…まで」で組になっていて、語順が変えられないときに限り、「より」と「まで」は用いることができないのです。

以上をまとめると、「から」「より」の表す意味自体はほぼ同じですが、用いられ方に関しては、限定表現をつくる場合、および「まで」との組み合わせで範囲を表す場合に、両者で違いが生じるようになります。